

| 専門分野 | | | |
|--|---------------------|------------------------------|--|
| 英文学 英語教育 | | | |
| 研究課題 | | | |
| 16 世紀イギリスの詩と戯曲、特にエドモンド・スペンサー研究、 | | | |
| 教育活動 | | | |
| 担当授業科目(学部) | | | |
| 平成 24 年度：English Drama, Advanced English I, リベラル入門Ⅱ、専門基礎演習Ⅰ、専門基礎演習Ⅱ、資格英語Ⅰ、資格英語Ⅱ フィールドスタディーズ(英語) B、イギリス文学史 | | | |
| 平成 25 年度：Advanced English I、English Drama、イギリス文学史、リベラルアーツ入門Ⅰ、異文化理解論(英語圏)Ⅰ、資格英語Ⅰ、資格英語Ⅱ、専門基礎演習Ⅱ、フィールドスタディーズ(英語) B | | | |
| 平成 26 年度：Advanced English I、TOEIC 中級、イギリス文学史、フィールドスタディーズ(英語) B、初級英語 C、上級英語 D、中級英語 B 2、リベラルアーツ入門Ⅰ、異文化理解論(英語圏) A、専門基礎演習Ⅰ | | | |
| 平成 27 年度：IPE-A、IPE-D、大学基礎講座、短期英語研修、初級英語 C、イギリス文学史、異文化理解論(英語圏) A、English Presentation A、専門応用演習、日本理解講座 | | | |
| 平成 28 年度：IPE-A、IPE-D、ICE-A、大学基礎講座、短期英語研修、中級英語 B、イギリス文学史、異文化理解論(英語圏) A、Project-based English A、卒業演習 | | | |
| 担当授業科目(大学院) | | | |
| | | | |
| 事項 | 年月 | 対象者 | 概要 |
| 教育方法の実践例 | | | |
| 帝塚山学院大学における PBL 学習の実践 | (平成 21 年、23 年、24 年) | 授業受講者 | 「リベラルアーツ入門Ⅱ」において、サービスマーケティング的取組を通じ、地域の課題発見、調査と分析、課題解決の提案をめざすプロジェクトベース学習(PBL)を実践。 ・平成 21 年「三屋川清掃活動の調査」一本学教育開発・支援センター主催の環境ワークショップにて、地域市民の前でプレゼンテーションを行い、好評を得る。 ・平成 23 年 PBL 学習「大阪狭山市ごみ減量・再資源化推進に関する取組み」 ・平成 24 年 PBL 学習「食堂ひだまり改善計画」 |
| フィールドトリップを取り入れた英語力強化と異文化理解の実践 | (平成 23 年、25、26 年) | 授業受講者 | 日帰りのフィールドトリップを実施する。英語ツアーガイドに挑戦すると同時に、手分けして各所を取材する。後日、発表と簡単な英語ガイドブックを作成する。 |
| 英語シナリオ・リーディングおよび創作劇を使用した英語コミュニケーション力強化の実践 | (平成 23 年～25 年) | 授業受講者 | ①英語朗読と②英語劇を行う。 ・朗読と劇を演じることにより、英語の発音やリズムを磨くことができる。 ・英語で発信・表現することになれることができる。 ・グループメンバーと協力して台本作成や上演準備をすることで、協調性を養うことができる。 |
| キャリア英語学科 TEZ-LINK Program における PBL 学習の実践と英語プレゼンテーション実践 | (平成 28 年度) | 「Project-based English A」受講者 | キャリア英語学科の TEZ-LINK Program は、学生たちが興味のある職種や業界について調査し、その業界で実際に働く社会人と交流。その業界に関する課題解決に取り組み、打開案を発表するというプロジェクト型の学び。発表は英語と日本語で行う。 ・平成 28 年度は、大阪狭山市役所 政策調整室 市民協働・生涯学習推進グループの山田修平氏と協働し、大阪狭 |

| | | | | |
|---|--------------------|--|--------------------------|----------------------------------|
| | | | 山市の課題に取り組む「ミッション型事業」を実施。 | |
| 作成した教材・資料集 | | | | |
| | | | | |
| その他教育活動上特記すべき事項 | | | | |
| | | | | |
| 研究活動 | | | | |
| 著書・CD・論文・学会発表 ・演奏会等の名称 | 単共 の別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称 | 共著者、共同発表者、共演者の名 前、曲名、担当頁、概要など |
| 著書・訳書・CD等 | | | | |
| | | | | |
| 学術論文 | | | | |
| 「帝国への意志 : エリザベス1世とジョン・ディー | 単 | 平成28年12月 | 帝塚山学院大学人間科学部研 究年報第18号 | pp.16-24 |
| 学会発表 | | | | |
| | | | | |
| 演奏会・発表会 | | | | |
| | | | | |
| その他の研究発表、演奏 | | | | |
| | | | | |
| その他の著書、訳書等(雑誌原稿等を含む) | | | | |
| | | | | |
| 研究助成金の受給状況 | | | | |
| 科研費の採択 | | | | |
| 研究タイトル | 助成金タイトル、支給元 | | 研究代表者・分担者の区別 | |
| | | | | |
| | 支給額 | | 支給年度 | |
| | | | | |
| その他の外部資金による活動 | | | | |
| 研究タイトル | 助成金タイトル、支給元 | | 研究代表者・分担者の区別 | |
| Moodle Reader Module を利用したパイロット研究 平成24年 | 帝塚山学院大学教育力向上共同研究助成 | | 共同研究者 | |
| | 支給額 | | 支給年度 | |
| | 0円 | | 平成24年度 | |
| 研究タイトル | 助成金タイトル、支給元 | | 研究代表者・分担者の区別 | |
| 学習意欲を高める英語基礎力養成・自主学習を支える学 習環境構築の取り組み 平成24年 | 帝塚山学院大学教育力向上共同研究助成 | | 共同研究者 | |
| | 支給額 | | 支給年度 | |
| | 369,610円 | | 平成24年度 | |
| 研究タイトル | 助成金タイトル、支給元 | | 研究代表者・分担者の区別 | |
| 学習意欲を高める英語基礎力養成・自主学習を支える学 習環境構築の取り組み 平成25年 | 帝塚山学院大学教育力向上共同研究助成 | | 研究責任者 | |
| | 支給額 | | 支給年度 | |
| | 118,112円 | | 平成25年 | |
| その他研究活動上特記すべき事項 | 年月 | 概要 | | |
| 小学校英語準認定指導者資格取得 | 平成26年9月 | 特別非営利活動法人 小学校英語指導者認定協議会により認定された資格。小学校英語指導者として一定の技能と知識を有していると認定されたもの。指導時間が50時間を超えれば、正資格を得ることができる。 | | |

| 学内委員等 | | | | |
|------------------------|------|----------------------------|----------------|--|
| 就任期間 | | 機関名・委員名・役職名 | | |
| 平成 24 年～25 年 | | 大学評議会委員入試委員会委員(第一部会)(副委員長) | | |
| 平成 24 年～25 年 | | 作問・採点委員会 (委員長) | | |
| 平成 24 年～現在 | | 作問・採点小委員会 | | |
| 平成 24 年～25 年 | | センター入試委員会 | | |
| 平成 24 年～25 年 | | 自己点検・評価委員会 | | |
| 平成 24 年～25 年 | | 自己点検・評価運営委員会 | | |
| 平成 24 年～25 年 | | 教育開発・支援センター運営委員会 | | |
| 平成 24 年～25 年 | | 教育開発・支援センター会議(委員長) | | |
| 平成 24 年～25 年 | | 高大連携委員会委員(外部)(委員長) | | |
| 平成 24 年～28 年 | | 国際交流センター委員会委員 | | |
| 平成 24 年～25 年 | | 大学共通教育委員会委員 (H25 委員長) | | |
| 平成 24 年～25 年 | | セクシュアルハラスメント問題委員会委員(委員長) | | |
| 平成 24 年～25 年 | | 学院改革会議・大学部会委員 | | |
| 平成 24 年 平成 26 年 | | オープンキャンパス委員会委員 | | |
| 平成 26 年 | | 教務部委員会・人間科学部教務部小委員会 | | |
| 平成 24～26 年 | | 入試委員会(第二部会) | | |
| 平成 26 年、平成 28 年 | | アドミッションセンター員会議 | | |
| 平成 27 年 | | 高大連携推進委員会 | | |
| 平成 27 年 | | 入試運営委員会 | | |
| 平成 27 年～28 年 | | 合否判定案作成委員会 | | |
| 平成 27 年～28 年 | | AO 入試運営委員会 | | |
| 平成 27 年～28 年 | | オープンキャンパス運営委員会 | | |
| 平成 27 年～28 年 | | 入試広報委員会 | | |
| 平成 27 年～28 年 | | 自己点検・評価委員会 FD 推進委員会 | | |
| 平成 27 年 | | 高大連携委員会委員会(外部・内部) | | |
| 平成 28 年 | | 大学 HP 委員会 | | |
| 社会活動 | | | | |
| 学会役員 | | | | |
| 就任期間 | | 学会役員名 | | |
| 平成 27 年～現在 | | 阪大英文学学会運営委員 | | |
| 公開講座 | | | | |
| 講座名、講演タイトル | 単共の別 | 年月 | 場所 | 概要 |
| 英語はなぜ必要なのか:グローバル社会を生きる | 単 | 平成 28 年 2 月 | 帝塚山学院大学狭山キャンパス | グローバル化が進む今日、国際共通語としての英語の重要性がよく話題になる。子どもの英語教育も早期化する一方であるし、英語を学び直したいと考える社会人も大勢いる。「英語ができる」と何が変わるのかを考える。 |
| 学外機関委員等 | | | | |
| 就任期間 | | 機関名・委員名・役職名 | | |
| (平成 16 年～現在) | | 河内長野イングリッシュフェスティバル 審査委員 | | |
| (平成 19 年～現在) | | 泉北ニュータウン学会理事 | | |
| (平成 20 年～現在) | | 大阪府立高石高校 学校協議会 委員長 | | |

| | | |
|---|---------------------------------------|-----------|
| (平成 21 年～現在) | 大阪狭山市市民公益活動促進委員会委員(平成 22 年より委員長) | |
| (平成 21 年～25 年) | 南大阪地域大学コンソーシアム 大学連携教育プログラム委員会委員長 | |
| (平成 22 年～現在) | 帝塚山学院中学校・高等学校 TG CUP 小学校中学校英語暗唱大会審査委員 | |
| (平成 23 年～25 年) | 大阪府教育委員会「使える英語プロジェクト」アドバイザー・スタッフ | |
| (平成 23 年～現在) | 大阪府立長野高校 学校協議会 委員長 | |
| 平成 27 年 | 大阪狭山市総合計画審議会委員 | |
| 平成 27 年 | 大阪狭山市総合戦略策定委員 | |
| 平成 28 年 | 大阪狭山市行政評価委員 | |
| 平成 28 年 | 財団法人大阪狭山市文化振興事業団評議員 | |
| その他、学会や学術的団体での活動、社会活動上特記すべき事項 | | |
| ・大阪イングリッシュフォーラム 2012 審査委員 平成 24 年 | | |
| ・平成 23 年度英語教育海外派遣研修 伝達講習会 指導助言 平成 24 年 | | |
| ・大阪府教育センター研究フォーラム 招聘講演 平成 24 年 講演タイトル:「伝えたいメッセージを持てることも育てるための小中高一貫した指導とは」(世界にはばたけ、大阪の子どもたち！－「使える英語プロジェクト」小中高の実践を通して) | | |
| 海外での活動 | | |
| 海外での教育、研究、大学運営、国際貢献にかかわること | | |
| 期間 | 国名 | 概要 |
| | | |